

流通とSC・私の視点

2010年5月29日

視点(1261)

日本の2030年の経済力はどうなるのか!!

日本の内閣府が5月28日に公表した「世界経済の潮流」の中で、2030年の日本経済の姿を描き出しています。私は、内閣府が公表した数字は「このままではこうになってしまう」との警告と思っています。それゆえに、我々の意識改革と根本的な経済変革による「2010年代の日本経済の奇跡」が起こると2030年の日本経済は全く異なった結果になります。

<内閣府が公表した2030年の世界経済の主要国の割合>

| | 2009年 | 2030年 | 備考欄 |
|---------|--------|--------|-----------------------------------|
| 日本 | 8.8% | 5.8% | 2000年代1.4%、2020年代0.4% |
| 米国 | 24.9% | 17.0% | 2000年代2.4%、2020年代1.6% |
| 中国 | 8.3% | 23.9% | 2000年代10.0%、2010年代9.1%、2020年代7.9% |
| インド | 2.2% | 4.0% | 現在7.2%、2020年代5.7% |
| ドイツ | 5.7% | 3.1% | |
| 英国 | 3.8% | 2.9% | |
| その他のアジア | 5.4% | 6.8% | |
| その他 | 40.9% | 36.5% | |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | |

これをGDP化(今回の2030年の世界経済の潮流の中では主要国の割合のみでGDPが実数として公表していないので独自に作成する)すると次の通りです。

2009年の世界の名目GDPを600,000億ドル(主要36ヶ国合計は530,210億ドル)とし、2010年から2020年まで毎年4.0%、2021~2030年までを3.0%と仮定すると、2020年には世界の名目GDPは924,000億ドル、2030年には1,242,000億ドルとなります。このGDPを用いて内閣府の数字を当てはめると次の通りになります。

| | 2030年の経済力 | | 現在 (2009年) | 2009年を1とすると |
|---------|-----------|--------------|---------------|-------------|
| | 構成比 | GDP | | |
| 日本 | 5.8% | 72,036億ドル | 49,107億ドル | 1.47倍 |
| 米国 | 17.0% | 211,140億ドル | 144,414億ドル | 1.46倍 |
| 中国 | 23.9% | 296,838億ドル | 43,270億ドル | 6.86倍 |
| インド | 4.0% | 49,680億ドル | 12,233億ドル | 4.06倍 |
| ドイツ | 3.1% | 38,502億ドル | 36,558億ドル | 1.05倍 |
| 英国 | 2.9% | 36,018億ドル | 26,799億ドル | 1.34倍 |
| その他のアジア | 6.8% | 84,456億ドル | 287,619億ドル | 1.87倍 |
| その他 | 36.5% | 453,330億ドル | | |
| 合計 | 100.0% | 1,242,000億ドル | 600,000億ドル | 2.07倍 |

このままでは、中国は日本の4.1倍となり、2025年までに中国はアメリカを追い抜くことになります。しかし日本の周りには、中国・インドを始めアジア諸国のGDPが503,010億ドルとなり、日本を7.0倍上回るマーケットが至近距離に準内需として実現します。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六車秀之